

支える

東京ボランティア奮闘記

「自分が死んだら葬儀は縁起でもない、といわず考えてほしい。そんな思いを持つ葬儀業者らが作ったのが葬儀を考えるNPO東京（高橋進代表理事）。ホームページや電話で啓発、相談活動を行い、「低価格の葬儀」を請け負う。

高橋代表は約20年間、都内の生花販売会社で葬儀用花の営業や葬儀の企画・実施を担当。200回近く葬儀に携わるうち、疑問が大きくなった。「なぜこんなに費用をかけるのだろう」

高橋さんによると、現在の葬儀費用の全国平均は約240万円、首都圏では250万〜300万円。しかし葬儀業者の基本的な仕事は、遺体を預かり茶毘に付し、お骨を遺族に返すことで、それだけなら人件費や運搬費、基本的な設営・装飾費は6万〜7万円程度だ。

葬儀の9割程度は昔ながらの檀家制度に基づく「仏式」。基本費用に、「読経と戒名」への謝礼が通常30万円以上、さらに自宅以外の式場費や設営費、会葬者の送迎、ふるまい、返礼品などの費用が積み重なっていく。「宗教儀式や業者が用意した付加的メニューに費用がかさむのが実態」と高橋さん。

葬儀を考えるNPO東京

会員は都内の葬儀事業者や「自分らしい葬儀」の賛同者20人。7月ごろに一般向けの「葬儀の基本」講座を予定。葬儀は首都近郊の2時間以内で移動できる地域が対象。事務所は千代田区平河町2の3の19（03・3511・5756）、平日午前9時〜午後6時。ホームページは<http://www.sogi.or.jp>

一方、葬儀については、さまざまな声が聞かれる。「意識もない夫の親類と一緒にの墓はいや」「親しい人が集まり、好きだった音楽をかけてもらうだけにしてほしい」

高橋さんは「価値観が多様化し、無宗教の人が多い時代。葬儀だけ宗教に帰依するのは不自然」と考え、独立を機に

なぜこんなに費用かかる？



マンションの6畳間で行われた葬儀。家族の希望で親族と近親者だけが集まった

「多様な考え尊重したい」

「自由な葬儀に対する合意の形成」を目指して非営利活動に乗り出した。最初は「すでに死にたいNPO東京」と名付けたが、死を美化するとの誤解を避けて現在の名に変更。しかし根底には「本人や家族がすてきと思える葬儀を」との思いがある。

「菩提寺の墓地を返上した家族の死に直面すると、悲しみや不安、短時間に処理しなければならぬことの多さに圧倒され、結果として業者の言いなりに費用がかさむ。大事なのは元気なうち、話し合えるうちに『その時』のことを考えておくこと」という。

「菩提寺の墓地を返上した

い」「公共墓地に埋葬される場合、葬儀はどうなるのか。電話相談には夫婦が違う宗教、宗派だったり、無宗教という人からの問い合わせが相次ぐ。「町会が介入し、葬儀業者も仲介すると言われた。普段付き合いがない人たちにあれこれ言われたくない」というケースもあった。アドバイスで解決しない場合、「葬儀を請け負うこともできます」と伝えるのが強みだという。

「葬儀は4畳半の部屋でも可能。複数の業者から見積もりを取ってください」と電話口で繰り返す。「今はよろず相談ですが、今後は自然葬などに必要なルールなども考えていきたい」という。

【窪田千代】